

学校関係者評価委員会 議事録

学校法人国際共立学園

学校関係者評価委員会

委員長 小林 美貴

会議名	学校関係者評価委員会 定例会議
開催日時	令和 7 年 2 月 28 日 18:00~19:00(1 時間)
場所	新館 3 階 大会議室
出席者	<p>【委員】</p> <p>小林 美貴(教育機関)、竹島 由紀恵(教育機関)(オンライン参加)、遠藤 友子(業界)</p> <p>文道 優妃(教育機関)、富岡 啓夫(業界)、白井 幸男(業界)、</p> <p>欠席：阿部 浩(教育機関)、篠崎 紗織(卒業生・業界)</p> <p>【教職員】</p> <p>五十嵐 久乃、工藤 佑輝、福島 三奈子、池田 昌央、嶺 雄太、境田 三友紀</p> <p>齊藤 彩子、高橋 淳実(事務局)</p>
配布資料	なし
5 月に開催した際に課題として挙がっていた項目に対し、本校側の今年度の取り組みを説明し、委員の方に意見をもらった	

工藤校長より	<p>【文部科学省関連】</p> <p>専門学校の今後の変更について(学校教育法の改正) 令和 8 年 4 月施行</p> <p>① <u>単位数への移行(大学と同様に)</u></p> <p>専門学校から大学への編入、国際基準で合わせることも目的なのではないか</p> <p>② <u>専攻科について</u></p> <p>特定専門課程(2 年)専攻科(2 年)で分けられるように想定しているのではないかと</p> <p>③ <u>第三者評価の努力義務(最も大きく変更)</u></p> <p>令和 8 年 4 月から第三者評価をほぼ義務化されるのではないかと噂されている</p> <p>※本校はすでに実施しているが、義務化となった場合混乱が予想される</p> <p>【厚生労働省関連】</p> <p>① 平成 29 年度に大きい改定(課目内容の変更など)を実施したが、通信課程の改定が行われる。現在、従事者：300 時間 非従事者：600 時間であるが、今後 600 時間に揃えることになる(この時間数が妥当かどうかは検討が必要)</p> <p>② 要請施設の調査で当校と岩手県の美容学校が選ばれ、施設のヒアリングの協力をおこなった。</p>
資格試験報告	<p>【理容：池田】3 日間の実施。受験者が増加しているが、800 名中 200 名が東京受験なので首都圏に集中している。</p> <p>【美容：斎藤】4 日間の実施(実施会場が 2 会場⇒3 会場)</p> <p>技術の仕上がりは問題ないが衛生面での不安点あり。</p>

	<p>【ビジネス美容科：境田】</p> <p>CIDESCO の筆記試験は全員合格</p> <p>ビューティーセラピー(実技)は不合格者 2 名、アロマは 1 名不合格(ビューティーセラピー不合格者 1 名が受験のため、自ずと不合格となった)</p> <p>《要因》</p> <p>理論と実技の結びつけた提案が難しく、口頭試問で躓きがあった。</p>
	<p>[委員への質問]</p> <p>グレーゾーン(学習障害等)の学生への対応について</p> <p>昨今の基礎学力、理解度の変化は高校の先生方は感じているか。またどのような対策を講じているか。</p> <p>【小林委員】</p> <p>個人で端末を持つようになり、ノートを取る機会が大幅に減っている。高校側も授業で使用するよう推奨が図られている状況。書くことが減ることにより要点をまとめ考えなくなり、理解度が下がっていると推察される。また海外では一足先にデジタルを導入していたが、学習能力の低下が懸念され撤廃している国もいる。</p> <p>【文道委員】</p> <p>千葉県は今年度から高校入試でマークシート方式が導入された。字をきれいに書く習慣がないのだろう。また調べればすぐに答えが出るので、記憶に頼る必要性を感じないのではないか。</p> <p>【竹島委員】</p> <p>便利なものを手にしているが、上手に活用ができていない。調べたいものにたどり着くことさえできない場合がある。</p> <p>【遠藤委員】</p> <p>入社してくる方に学習能力の低下を感じることはあまりない。ただ研修で配布している資料を読んでいるようで実際は読み込めてはいないかもしれないと今回の話を聞いて感じた。</p>
補講の都度実施と 7 時間授業について	<p>【学務課：嶺】</p> <p>① 7 時間授業の導入</p> <p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンテスト入賞者の増加 ・色彩検定の奨励賞を受賞 <p>② 補講実施</p> <p>学生全体の遅刻、欠席数が減少した。</p> <p>《課題点》</p> <p>進級、卒業に影響される時数となった場合、どの程度幅を持たせるのか課題点となっている</p> <p>【白井委員】</p> <p>欠席等に対しての意識は非常に高まっていたのではないかと。1 年次から 2 年次でやり方が変わったが柔軟に対応できているようだった。</p> <p>【小林委員】</p> <p>高校は未履修の科目がひとつでもあれば、どんなに他が優秀でも進級できない。</p>

	<p>冒頭の校長の話にも繋がるが、単位制変更を視野に入れるなら履修、進級の規定、授業日数の縛り等も課題となるだろう。</p> <p>【工藤校長】</p> <p>大学は単位が修得できなくても翌年に履修することは可能だが、専門学校は積み上げ式なので、間の取りこぼした単位を次年度履修するということは物理的に難しい。よって単位制を実現化する方向性が現状は見えない。</p>
実務実習先での入客について	<p>【美容科：斎藤】</p> <p>技術のみならず入客(お客様に携わる)することを目標に実施し、8割が入客できた。お金をいただいて仕事をするこの意味を理解させるために実施している。</p> <p>《成果》</p> <ul style="list-style-type: none"> ① コミュニケーション力の向上 ② 技術細部にこだわりを持つようになった ③ 自分で考えて行動する姿勢が見受けられた ④ 就職への意識の高まり <p>《課題点》</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 疲労が表情や態度に出てしまい、社会人として足りないところが表面化された ② 環境に慣れるまでに日数を要する <p>【理容科：池田】</p> <p>以前は12月に実施していたが忙しい時期だったこともあり変更した。ただ1、2月は比較的閑散期であるため、適切な時期がいつなのか模索している。</p> <p>【富岡委員】</p> <p>実習生はサロン側にとってはお客様として扱う所もあるのではないかとあえて仕事を作っている所も否めない。仕事ができるようになることも必要だが、挨拶など基本的なことが実務実習では求められている。</p> <p>【白井委員】</p> <p>時期は難しい問題。教育効果の高い時期とサロンの状況が合う時期が見極めにくいので一概には言えない。</p> <p>学生の間にプロ接客ができているのがベストだが、接客の『せ』がそもそもできていない。</p> <p>【遠藤委員】</p> <p>オーナー同士で学外実習の情報共有はしているが、オーナーの理解度をもっと上げる必要性を感じる。サロン全体の流れを伝えたくて、自身でできる仕事を考えてもらうことも大切なのではないかと。お客様からの感謝が人を成長させるので、その仕組みづくりをどうできるか。</p>
募集状況報告	<p>【広報課：高橋】</p> <p>昨年度より減少している状況</p> <p>ビジネス美容科の募集停止も影響あり</p> <p>《想定要因》※これらは本校だけの問題ではない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 大学と専門学校の比較 ② 18歳人口の減少

	<p>《内部要因》</p> <p>① 来校者の歩留まりが悪かった</p> <p>② 学校の魅力が訴求できていなかった</p> <p>《課題点》</p> <p>理容科の女性層が減少している。男性は安定的に見込めているが、女性のアプローチが難しい状況。</p> <p>【竹島委員】</p> <p>美容師希望が多く、商業高校がゆえに資格をしっかりとることの重要性を理解している生徒が多い。</p> <p>【文道委員】</p> <p>美容希望者層が減っている傾向はない。</p> <p>【白井委員】</p> <p>一部の理容師(学生含む)は怖い印象を持つ人が一定数いる。美容は柔らかい雰囲気の人が多いので、その点も影響があると思う。</p> <p>シェービングを含めたリラクゼーション効果の魅力をもっと伝えたらよいのではないか。</p> <p>【理容：池田】</p> <p>流行のきっかけが、HIPHOPなどのカルチャーから影響を受け目指している学生が多く、その層は今後も増えていくだろう。</p> <p>以前まで理容と美容で比較する高校生もいたが、二極化されており中性的な男性はほぼ理容科にはいない。希望者が増えることはいいことだが、指導面での懸念もあるため、女性層にもアプローチをしていきたい。</p>
委員長より	<p>2年の任期が終え、今年で10年となる。</p> <p>新しい気持ちで次回実施できるとよいと思う。</p>
次回開催予定	2025年5月23日（金）18：00～